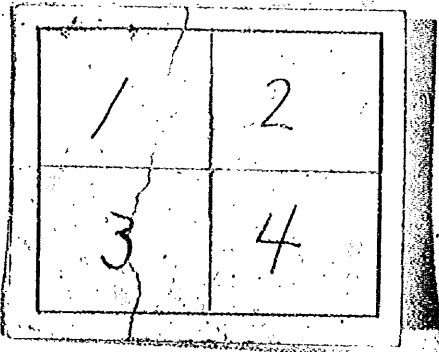


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊原簿

蜀立昆戎第一三三二旅團



部隊原簿

獨立混成第一三三旅團

部隊原簿

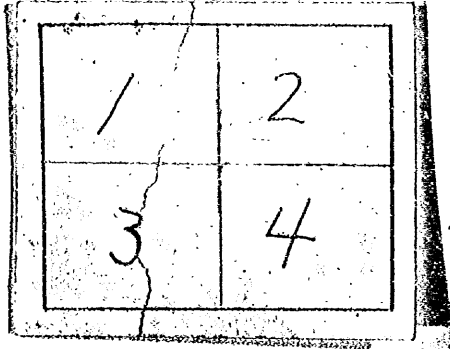
獨立混成第一三三旅團

1/A

3/A



分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0000
0000
0000
0000

第三軍獨立混成
第一三三旅團
部隊名 獨立混成第一三三旅團司令部
通稱號 奮戰二七五二三部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	人員編制		別隊		駐屯地		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入「ソ」迄の變動		隊別計		滿洲殘留							
<p>一九三〇、八、八 東京城にて武解 大城麻痺地に後退 八、九 大城麻痺地に後退 八、一八 大城麻痺地に後退 八、三〇 東京城にて武解 同地收容所に收容 九、一三 救済隊河津由入「ソ」 但し司令官自體は戰鬥を行 はず 大村 菊一 少尉 下川喜三男 進尉 野津光昭 川崎 謙一 八、三〇 東京城にて二六六大隊編成 長大尉 西尾元 八、三〇 東京城にて二六六大隊 長中尉 田中正勝 九、二 東京城にて二六八大隊編成 長大尉 岡村晴英</p>		十九年以降	十九年以降	233		<p>旅團長 少將 鬼頭善一 高級副官 大尉 鴨志田 約200 兵員</p>		<p>東 東 上 同</p>		<p>八、七 八、一六 戰鬥命令所進入同日大城麻痺地 配備完了</p>		<p>八、九 八、一〇 八、二八 屯田出發金島江方村を経て、 大城麻痺地到着歩兵二八三聯隊 合隊 東京城にて武解</p>		<p>シ軍指示に依り各大隊に編成</p>		<p>作業大隊より 入「ソ」迄の變動</p>		<p>入「ソ」人員</p>		<p>滿洲殘留</p>					
部 理 經		部 器 兵		部 謀 參		部 理 管		部 官 副		隊 長 名		時 間		駐 屯 地		戰 鬥 間 的 状 況 及 損 耗		終 戦 後 の 人 員 變 動		作 業 大 隊 以 降 の 變 動		隊 別 計		滿 洲 殘 留	
		部長 大尉 森 龜之助		參謀長 中 佐 林				<p>旅團長 少將 鬼頭善一 高級副官 大尉 鴨志田</p>		<p>東 東 上 同</p>		<p>八、七 八、一六 戰鬥命令所進入同日大城麻痺地 配備完了</p>		<p>八、九 八、一〇 八、二八 屯田出發金島江方村を経て、 大城麻痺地到着歩兵二八三聯隊 合隊 東京城にて武解</p>		<p>シ軍指示に依り各大隊に編成</p>		<p>作業大隊より 入「ソ」迄の變動</p>		<p>入「ソ」人員</p>		<p>滿洲殘留</p>			

部 隊 名	獨立混成第一二二三旅團司令部		通稱號	奮戰二七五二三部隊		郵便所名	
別 隊	隊長名	()内は先代を示す	戰鬥人員	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ迄の變動
旅團長	少將 鬼頭善一		約200	東 京			入ソノ人員
高級副官	大尉 鶴志田			上 同			滿洲殘留
參謀長	中佐 林				八、七 發射司令所進入同日大城麻轉送 八、一六 隨備完了		收 容 所
部長	大尉 森 總之助				八、九 屯警出發金山万才峠を経て 八、一〇 大城麻に到着歩兵二八三聯隊と 合流 八、二八 東京城にて武解		收 容 所 名
							員所入
							死亡
							滿洲より領
							計
							者 數
							狀況不明

部隊名 獨立混成第一二二三旅團司令部
通稱號 奮戰二七五二三部隊

郵便所名

三〇

八、二九
大坂城に突入

八、三〇
大坂城にて武所
同地收容所に收容

九、一三
按河津野原由入「」
但し河津野原は戦平を行
はず

准尉 大村 菊一
少尉 下川登三男
准尉 野村 光平
川崎 頼一

八、三〇
東京城にて二六六大隊編成
長大尉 西尾元

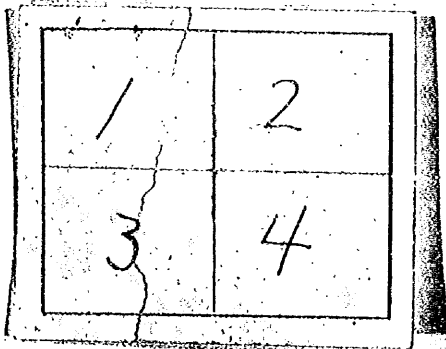
八、三〇
東京城にて二六九大隊
長中尉 田中正隆

九、二
東京城にて二六八大隊編成
長大尉 岡村嘉英

部 隊 頭	部 隊 軍	部 理 經	部 器 兵	部 謀 參	部 理 管	部 官 監
			部長 大尉 森 總之助	參謀長 中 佐 林		監 官 少 佐 大 尉 大 尉
						監 官 少 佐 大 尉 大 尉
						監 官 少 佐 大 尉 大 尉
				廠 城 大		監 官 少 佐 大 尉 大 尉
			八、九 花巻出陣命出陣方時を経て 八、一〇 大坂城に到着歩兵二八三聯隊 全隊 八、二八 東京城にて武所	八、七 坂井町令所迎入同日大坂城編成 八、一六 西郷完了		監 官 少 佐 大 尉 大 尉

ノ軍指示に依り各大隊に編成

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0010
0011
0012
0013

第三軍獨立混成
第二一二二旅團
部隊名獨立歩兵第七八三大隊

通稱號 奮戰三三七五二四

郵便所名

全般概要

轉入
轉出

人員制編

別隊

隊長名
(内は先代を示す)

開人
時員

駐屯地
平時
戰時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ迄の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

收

八八八
東京縣國台地區區區開戦

八八六
大城嶺陣地に於て第一分隊
攻撃を受け奮闘配給に
司令格との通信杜絶

八八一
敵一ヶ大隊殺退

八八五
日丸陣地奪取せらる

八二六
ソ軍一〇二司令部及トーチ
カ砲臺し並に四門破壊敵の
銃聲を聞く

八二七
正副陣地に新込運送を行

八二六
軍警隊修隊命令を下達
部隊は陣地より下山して
標(約一〇〇〇名)

九二二
金若沼、下士官以下は同收
容所將校は他部隊將校と合

一一二
間島收容所出陣列車にて新
京滿洲里經由

一一二
ラトダ收容所迄

一一七
エラフカ九七收容所

三、九
後援のため「グセルタフ」
收容所へ送還

一一一
エラフカ收容所へ

233

大 隊 本 部
第 一 中 隊
第 二 中 隊
第 三 中 隊
第 四 中 隊
歩

大隊長 齋藤俊治
大尉 藤井太郎
主少尉 藤井太郎

東 部
上 同

中隊長 光安源市

中隊は旭山陣地に在り
八、九、午前八時三〇分頃ソ軍より砲撃開
始夕霧旭山陣地附近にて潜伏斥候隊と
衝突す
八、一〇、敵歩兵攻撃し来る
八、一五、後方との連絡全く絶れ戦死七行
方不明
八、二六、修隊命令受領陣地下山武原

行軍にて九、二金若沼
一〇將校は全員他部隊將校と合す

九、二下士官兵は金若沼
收容所
一〇、金若沼間島收容所へ
入り入ソトチキト一行軍途
中若干の損耗有り
一一、二將校は間島收容
所發汽車にて新京滿洲里經
由入ソ

部隊名 獨立歩兵第七八三大隊

通稱號 奮戰 三二七五二四

郵便所名

隊別	大 隊 本 部	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊	第 四 中 隊
隊長名 (内は先代を不示す) 大隊長 齋藤俊治 大尉 藤井太郎 主少尉					中隊長 中尉 光安源市
關人 戰時 駐屯地 平時 戰時	東 部 上 同				
戰鬥間の狀況及損耗					
終戦後の人員變動					
作業大隊より入ソ迄の變動					
入ソ人員					
滿洲殘留					
收容所					
死亡					
滿洲ソ領より					
計					
者數					
狀況不明					

中隊は旭山麓山陣地に在り
八、九、午前八時三〇分頃ソ軍より砲撃開始
始夕旭山麓陣地にて潜伏兵隊隊員と衝突す
八、一〇、敵歩兵攻撃し来る
八、一五、後方との連絡全く絶ゆ戦死七行方不明
八、二六、停戦命令受領陣地下山武解

行軍にて九、二金倉原
一〇、將校は全員他部隊將校と合す

九、二下士官兵は金倉原
所
一〇、金倉原開島收容所
入ソクオムキトへ行軍途
中若干の損耗有り
一、二、三、將校は開島收容
所發着にて新京滿洲里
由入ソ

八、九 大坂陣地を築き第一分隊
攻撃を遂げ、陣地を占領し、
司令官の退却を許さず、
陣地を固く守る。

八、一〇 敵一ヶ大隊を退
く。

八、一一 出丸陣地を奪取せしむ。

八、一二 八、一六 司令官及トーチ
カ砲臺を占領し、四門砲臺の
銃臺を突く。

八、一七 重砲陣地に新込砲臺を行
く。

八、一八 軍參謀長命令を下達
し、陣地より下山砲臺
へ(約一〇〇〇ヤ)

九、一 金若澁、下士官以下は同收
容所將校は他部隊將校と合
し。

一一、二 間島收容所出發列車にて新
京濱洲原経由

一一、三 ラトマ收容所迄

一一、七 エラフカ九七收容所

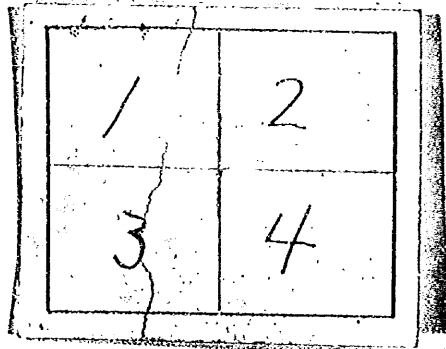
三、九 復讐のため「クセルタフ」
收容所へ派遣

一一、一 エラフカ收容所へ

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊六
		中隊長 中尉 光安源市				三少尉 藤方太郎
						等
						上
		中隊は旭山陣地に在り 八、九 午前八時三〇分頃ソ軍より砲臺間 始少砲旭山陣地附近にて港兵銃砲兵隊と 衝突す 八、一〇 敵歩兵攻撃し來る。 八、一五 後方との連絡全く絶たれ死七行 方不明 八、二六 停戦命令受領陣地下山攻撃				
			行軍にて九、二金若澁 一〇、將校は全員他部隊將校と合す			
			九、二下士官兵は金若收容 所へ入ッラスキーへ行軍途 中若干の損傷有り 一、二、將校は間島收容 所發汽車にて新京濱洲原 由入ッラ			前隊長大佐 谷岩溪

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊六
		<p>中隊長 中尉 光安源市</p>				<p>大尉 主少尉 藤井太郎</p>
		<p>中隊は旭山麓山陣地に在り 八、九、午初八時三〇分頃ソ軍より砲撃開始 旭山麓山陣地階にて潜伏兵隊隊員と衝突す 八、一〇、敵歩兵攻撃し来る 八、一五、後方との連絡全く絶ゆ戦死七行方不明 八、二六、停戦命令受領陣地下山式解</p>				
		<p>行軍にて九、二金着座 一〇、將校は全員他部隊將校と合す</p>				
		<p>九、二下士官は倉倉牧寮所 一〇、倉倉間高牧寮所より入メクレスキドへ行軍途中若干の損耗有り 一一、二、將校は同島牧寮所乗汽車にて新宮浦洲里經由入メクレスキド 師團長大佐 谷岩藏</p>				

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0014
0015
0016
0017

所 第三軍獨立混成
第一二三旅團

部隊名 獨立歩兵第七八四大隊

通稱號 奮戰三三五二五

郵便所名

全般概要

轉入 轉出
十九年以降 十九年以降

員人編

別除

隊長名
(内は先代を示す)

戰時 人員

駐屯地
平時 戰時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入「ソ」迄の變動

隊別
計

滿洲殘留

收
所

八、九
開戦と同時に三角山陣地に
配備された所を敵に占領せ
られあり彼等の距離三〇
一〇〇米午前二時敵侵入
を認め我が頑強な抵抗を排
除す陣地の止むなきに至る

八、一三
大城破産

八、一八停戦
式裝解除直に東京流に收容

八、三〇
作業二六四大隊編入七八四
大隊七八五大隊主力一三三
旅團逐次

九、一四
長津湖を渡り入「ソ」

九、一五
ハハロフスク地区に轉送

第四中隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	大隊司令部	本部	別除	隊長名 (内は先代を示す)	戰時 人員	駐屯地 平時 戰時	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	隊別 計	滿洲殘留
少尉 鈴木	中隊長 中尉 小津 敏夫	中隊長 大尉 梅本 勝	少尉 田口 重		大隊長 大尉 大森 寅				東 東 上 同	八、一〇 東部北西約一軒の地點に「ソ」 軍と遭遇全滅の模様				
										一國守政編と同時に四二號陣地に在り 五月下旬東京に移駐 八、九 開戦 八、一三迄 戰鬥部隊の大部は戦死				

隊名 獨立歩兵第七八四大隊

通稱號 奮戰 三三五二五

郵便所名

隊別	本 部	大 隊 長	中 隊 長	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊	第 四 中 隊
隊長 (内は先代を示す)	大隊長 大尉 大森 寅	中隊長 大尉 梅本 勝	中隊長 中尉 小津 敏夫	少尉 田口 重			少尉 鈴木
開入 戦員							
駐 屯 地	東 上						
戦斗間の状況及損耗				八、一〇 東部北西約一軒の地盤にてソ連軍と遭遇全滅の模様	一國守攻撃と同時に四二號陣地に在り 五月下旬東部に移駐 八、九 陽戦 八、一三迄 戦斗部隊の大部は戦死		
終戦後の人員變動							
作業大隊より入ソ連の變動							
入ソ連人員							
隊別計							
滿洲殘留							
收容所名							
收容所							
死亡							
滿洲より領計							
歸還人員							
死亡者数							
状況不明者数							

八、一三
大塚

八、一八
大塚

八、三〇
大塚

九、一四
大塚

九、一五
大塚

本
大塚

東
上

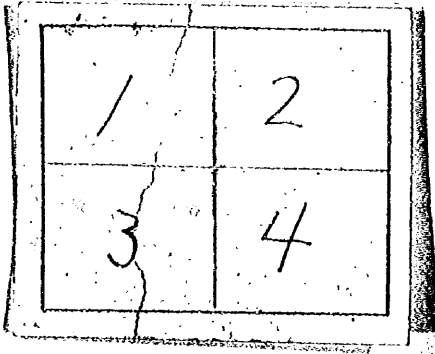
八、一〇
大塚

一國守改組と同時に四二號地に在り
五月下旬東京に移駐
八、九 異動
八、一三迄 戦斗隊部の大部は覆死

本 部	大塚隊	第一中隊	第二中隊	第三中隊	第四中隊	歩兵砲小隊	機關銃中隊
大塚 大塚 大塚		少尉 田口 重	中隊長 大尉 梅本 勝	中隊長 中尉 小津 敏夫	少尉 鈴木	見士 村松 達雄	隊長 少尉 改井 秀雄

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	季行隊大	部	本
隊長 少尉 改井 秀雄	見士 村松 達雄	少尉 鈴木	中隊長 中尉 小津 敏夫	中隊長 大尉 梅本 勝	少尉 田口 重			六三二 六三六 寅
								等
								上
					一 國軍政務司同時に四二隊隊部を在り 五月下旬支隊を移駐 八、九 開戦 八、一三迄 戦斗隊部の大部は覆死	八、一〇 北支隊一隊の地隊「ア」 名と番号を示すの誤録		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0018
0019
0020
0021

第三軍獨立混成
第一三二旅團
部隊名 獨立歩兵第七八五大隊

通稱號 奮戰 三七五二六

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人調編	隊別	隊長名	關入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	隊別計	滿洲殘留
<p>二〇、中 編成部隊監視 八、九〇〇、二〇頃國山 隊監視上を敵通過〇、一 〇頃東門監視隊附近に 隊あり監視隊前方國境 察察快心を察察され全 隊の心算の統率なり</p> <p>〇二、三〇頃 南區安行監視隊察察 一名のみ生存</p> <p>〇九、〇〇頃 監視隊は引揚命令ナリ 隊の大隊陣地にて北に合 隊半隊大隊は〇、三〇〇 陣地位置し戦半準備を完了 しあり</p> <p>一八、〇〇 金島山に後退陣地死守の目 的を達し八、九大隊へ 進山して敵軍に察察され れ各中隊分隊大隊へ向ふ</p> <p>八、一一 敵軍の攻撃を受各中隊は 分隊各々戦半せる模様</p> <p>八、一四 大隊隊監視隊の攻撃を察 知戦半準備を命ぜられ機井 中隊全隊の指揮を命ぜらる</p> <p>八、一九 前進陣地監視</p> <p>八、二〇 特設指定大隊隊にて武備各 中隊集結大隊長代理河内中 隊監視山にて完全武備を整 施</p> <p>八、三一 東京城にて作業二六四大隊</p>		十九年以降	十九年以降	718	大隊本部	大隊長 柴田 常吉 副少尉 河西 吉川 醫中尉 吉川	關入 時員	駐屯地 東 上 東 同	<p>大隊長副官生死不明 八、一二 金島山にて敵軍の察察に及び 生死不明となる</p> <p>八、九 晩大隊隊に向ひ轉進 八、一〇 朝金島山にて敵軍甲隊に追 撃せらる</p>	<p>當大隊は終戦後東京城に集結同地に收容せ られ當時の人員の變動は衛生兵關係が他部 隊に轉入した以外生死不明者行方不明を除き 約二分の一人員となる他の二分の一は戦死 逃亡行方不明及終戦後行方不明者約二分 の一と推察す</p> <p>當時集結は二名なり</p>	<p>東京城に於て二六四大隊に 第二中隊として編成</p>	<p>入ソ人員 隊別計</p>	<p>滿洲殘留</p>
第四中隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	大行隊	少尉 眞岸 敦閑	關入 時員	駐屯地	<p>前哨として行動中敵軍の攻撃を受け二三 生死不明</p>	<p>同右</p>	<p>約60名</p>			
<p>中隊長 河内 功治</p>	<p>少尉 佐々木忠義 1 准尉 松岡 文吾 2 曹長 山谷</p>	<p>中隊長 櫻井 秋雄 1 少尉 安田 敏夫 2 准尉 河西 武藏 3 曹長 林 且弘 (指揮班長を兼任)</p>	<p>中隊長 櫻井 秋雄 1 少尉 安田 敏夫 2 准尉 河西 武藏 3 曹長 林 且弘 (指揮班長を兼任)</p>	<p>伍長 藤葉</p>	<p>東 上</p>	<p>約102</p>	<p>東 上</p>	<p>病死一、戦死六、入隊四、生死不明六 金子海に於て敵軍部隊の追撃を受け轉進 八、一二 老及家にて武備</p>	<p>同右</p>	<p>約200名中 (2中隊 78名)</p>			
								<p>八、九 東城に於て警備部隊の攻撃を受 け轉進 八、一二 金島山にて敵軍部隊と遭遇す 八、二三 大隊隊にて主力と合流離隊一 九名 八、二三 老及家にて武備</p>	<p>同右</p>	<p>八、三一 東京城にて解散</p>	<p>右 同</p>	<p>ハバロフスク第四 分所二一、六月頃 ゴリキ村第十二 收容所へ (佐々木中隊長 三名)</p>	

部隊名 獨立歩兵第七八五大隊

通稱號 奮戰 三二七五二二六

郵便所名

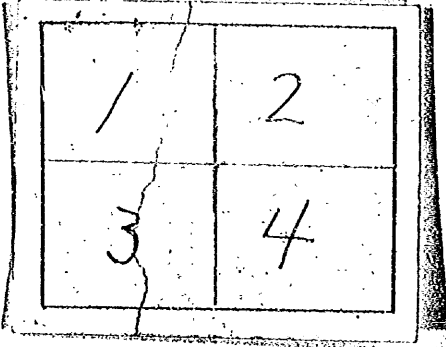
隊別	隊長名	關入時員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	入ソ人員	滿洲殘留	收容所	所人員	死亡	滿洲より	歸還人員	狀況不明者數
本隊	大隊長 柴田 常吉 副大隊長 河西 吉川 中隊長 吉川		東 上	大隊長副官生死不明 八、一二 金島山にて敵機隊の襲撃にあひ生死不明となる	本大隊は終戦後東京城に築地同様に收容せられ當時の人員の變動は衛生兵關係が他部隊に轉入した以外戦死逃亡行方不明を除き約二分の一人員となる他の二分の一は戦死逃亡行方不明及終戦後行軍途中落伍者約二分の一と推察す 當時鮮兵は一二名なり	東京城に於て二六四大隊に第二中隊として編成	隊別計		九、一五 將下兵共ハバロフスク第一六ノ四分所に入					
大隊	伍長 薄葉			八、九 晩大城壁に向ひ轉進 八、一〇 朝金島山麓にて敵機隊の襲撃にあひ生死不明	同右									
第一中隊	中隊長 櫻井 秋雄 少尉 安田 敏夫 准尉 河西 武藏 曹長 林 巨弘 (指揮班長を兼任)	102	東 上	病死一、結核六、入隊四、生死不明六 金子清に於て敵機隊の襲撃を受け轉進 八、一二 老夏家にて武解	鮮兵一名逃亡 同右									
第二中隊	少尉 佐々木 忠義 准尉 松岡 文吾 曹長 山谷	82		金島山に敵機隊の襲撃に於て損傷大 附近部隊の者を收容し 約六〇名となる 八、二六、二、一に滅す	同右	八、三一 東京城に於て二六四大隊長大隊大森實 九、一 波野野村河原由 九、一五 ハバロフスク四分所 八、三一 東京城にて解散	約200名中 (3中隊 78名)		ハバロフスク第四分所二一、六月頃ゴリキ村第十二收容所へ (佐々木中隊長三名)					
第四中隊	中隊長 河内 功治 中尉			八、九 東線に於て警備部隊の攻撃を受け轉進 八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す 八、二二 大城壁にて主力と合流離隊二九名 八、二二 老夏家にて武解	同右	同右	約60名							

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	李行隊大	部本隊太
見士 阿部 義一	見士 更級	中隊長 河内 功治	少尉 佐々木忠義 1 准尉 松岡 文吾 2 曹長 山谷	中隊長 櫻井 秋雄 1 少尉 安田 敏夫 2 准尉 河西 武彦 3 曹長 林 且弘 (指揮班長を兼任)	少尉 真岸 教閑	伍長 藤葉	六 齋 栄田 常吉 副少尉 河内 常吉 見士 吉川
84			82	102			
	綏 東			綏 東 溝子城			波
	上 同						上
八、九 東陵に於て敵軍部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山附近より万才峰を登り、八、二〇 大城原にて主力と合流す三七名、他は不明なり負傷九名、八、二二 老及家にて武器東京城集結、八、二六 老及家にて解散(三七名)		八、九 東陵に於て警戒部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散	八、九 東陵に於て警戒部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散	八、九 東陵に於て警戒部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散	八、九 東陵に於て警戒部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散	八、九 東陵に於て警戒部隊の攻撃を受け、機銃連中機銃掃射を受け、八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散	八、一二 金島山にて機甲部隊と遭遇す、八、二二 大城原にて主力と合流す二九名、九名、八、二二 老及家にて解散
同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右
八、二八 東京城 最大尉西尾元 九、七 按河出渡 九、一八 ホテル地区スタ レットラス 二、二二 六六部隊	右 同	右 同	八、三一 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 按河越河越由 九、一五 ハロフスタ四分 所	八、三一 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 按河越河越由 九、一五 ハロフスタ四分 所	八、三一 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 按河越河越由 九、一五 ハロフスタ四分 所	八、三一 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 按河越河越由 九、一五 ハロフスタ四分 所	八、三一 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 按河越河越由 九、一五 ハロフスタ四分 所
43名		約60名	約200名中 (2中隊 78名)				

ハバロフスタ分所二一、六日
ゴロキ村第十
收容所へ
(佐々木中隊長
三名)

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	李行隊大	部本隊太
見士阿部義一	見士更級	中隊長 中尉 河内一功治	少尉 佐々木忠義 1 准尉 松岡文吾 2 曹長 山谷	中隊長 櫻井秋雄 1 少尉 安田敏夫 2 准尉 河西武壽 3 曹長 林且弘 (指揮班長を兼任)	少尉 真岸教閑	伍長 薄葉	大尉 桑三常吉 副少尉 河内吉川
84			82	102			
	綾東			綾東 溝子城			綾東
	上同						上同
八、九 東綾に於て敵警戒部隊の攻撃を受 け難連中機銃掃射を受く 八、一二 金島山附近より万才峠を越す 八、二〇 大城麻にて主力と合流す三七名 他は不明なり負傷九名 八、二二 老夏家にて武解東京城集結 八、二二 老夏家にて武解(三三)		八、九 東綾に於て警戒部隊の攻撃を受 け難連 八、一二 金島山にて後甲部隊と遭遇す 八、二二 大城麻にて主力と合流し隊員 九名 八、二二 老夏家にて武解	金島山に後退警戒部隊にて損害大 附近部隊の者を收容し 約六〇名となる 八、二六、二、一に滅す	前哨として行動中敵戦車の攻撃を受け二名 生死不明 死一、傷六、入隊四、生死不明六 綾子溝に於て警戒部隊の追撃を受け難連 八、二二 老夏家にて武解		八、九 大城麻に於て難連 八、一〇 金島山麓にて敵機中隊隊に迎 撃す	八、一二 金島山にて敵機中隊の襲撃を受 け難連となる
同右	同右	同右 八、三二 東京城にて解散	同右	同右 鮮赤一名逃亡	同右	同右	同右 八、三三 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所
八、二八 東京城 長六尉西尾元 九、七 抜河出後 九、一八 ホール地区ス ト 二、二二六 宿務 宿務大機銃(三三)	右同	右同	八、三二 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所	八、三二 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所	八、三二 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所	八、三二 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所	八、三二 東京城に於て二 六四大隊長大尉大森寅 九、一 抜河鐵券河經由 九、一 一五ハバロフスク四分 所
43名		約60名	約200名中 (2中隊 78名)				
			ハバロフスク第四 分所二、六月頃 ゴトリキ村第十二 收容所へ (佐々木中隊長 三名)				ハバロフスク第 二六ノ四分所に入 所
			九、一八 ホール地 區スターレートラ スト 三二、二二、六六 部隊				

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0022
0023
0024
0025

第三軍獨立混成
第二三三旅團

部隊名 獨立歩兵第七八六大隊

通稱號 奮戰三三五二七

郵便所名

全般概要

八二一
八二二
八二三
八二四
八二五
八二六
八二七
八二八
八二九
八三〇
八三一
八三二
八三三
八三四
八三五
八三六
八三七
八三八
八三九
八四〇
八四一
八四二
八四三
八四四
八四五
八四六
八四七
八四八
八四九
八五〇
八五一
八五二
八五三
八五四
八五五
八五六
八五七
八五八
八五九
八六〇
八六一
八六二
八六三
八六四
八六五
八六六
八六七
八六八
八六九
八七〇
八七一
八七二
八七三
八七四
八七五
八七六
八七七
八七八
八七九
八八〇
八八一
八八二
八八三
八八四
八八五
八八六
八八七
八八八
八八九
八九〇
八九一
八九二
八九三
八九四
八九五
八九六
八九七
八九八
八九九
九〇〇

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

人員制編
718

隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	李行隊大	部本隊大	別隊
					大隊長 少佐 駒井庄五郎	隊長名 (内は先代を示す)
					東 鞍	開入 戦時 駐屯地
					東(大)東 鞍(子)鞍	開入 戦時 駐屯地
						戰鬥間の状況及損耗
						終戦後の人員變動
						作業大隊より 入「ソ」迄の變動
						入「ソ」人員
						隊別計
						滿洲殘留
						收

隊別	大 隊 本 部	大 隊 行 李	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊	第 四 中 隊
隊長名 (内は先代を示す) 大隊長 少佐 駒井庄五郎						
開入 人員 時間						
駐屯地 平時 戦時	東 紘					
戦闘間の状況及損耗	東 紘 大(城子) 東 紘					
終戦後の人員變動						
作業大隊より 入ソ連の變動						
入ソ連人員 隊別 計						
満洲殘留						
收容所 收容所名						
所入 死亡						
歸還人員 満洲より ソ連より 計						
状況不明 者 数						

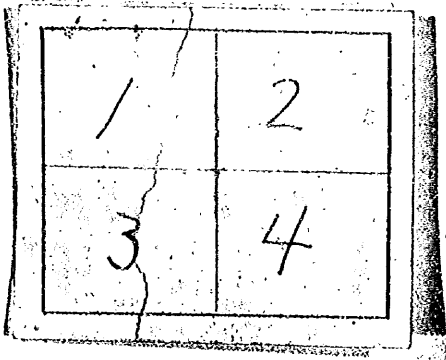
名 獨立歩兵第七八六大隊
通稱號 奮戰 三七五二七
郵便所名

六二二
1931.4.13
21.4.13

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	率行隊六	部本隊六
<p>大野 田 常 吉 中 野 見 水 谷 高 手</p>							<p>少 佐 三 三 三 三</p>
<p>10</p>							
<p>車</p>							<p>兵</p>
<p>上 月</p>							<p>兵</p>
<p>東 軍 兵 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊 中 隊</p>							
<p>隊 中 隊 中 隊 中 隊 隊 中 隊 中 隊 中 隊 隊 中 隊 中 隊 中 隊 隊 中 隊 中 隊 中 隊</p>							
<p>所</p>							

隊中銃關機	隊小砲兵歩	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	季行隊大	部本隊大
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							<p>少 佐 菅野 田中 吉</p>
<p>10</p>							
<p>上 月</p>							<p>少 佐 菅野 田中 吉</p>
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							
<p>大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉 大尉 菅野 田中 吉 中尉 菅野 田中 吉 少尉 菅野 田中 吉</p>							

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0026
0027
0028
0029

所 第三軍獨立混成第一三三旅團 部隊名 獨立混成第一三三旅團通信隊 通稱號 奮戰三七五三一 郵便所名

全般概要

轉入
轉出

員人額編

別 隊

隊長名
()内は先代を不
示す

團入
戦員

駐屯地
平時
戦時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入「ソ」迄の變動

隊別計

入「ソ」人員
滿洲殘留

收

八、八、一
關東と同時に那花山陣地點
八、九、一
津浦開始
八、一四
大城原に集結
八、二二
老馬家にて武庫
八、二六
東京城にて解散され二週間
後按河経由にて入「ソ」
九、一二
ハロワスタに移送同所
にて二分、一分は同地獄マ
ルホトススカヤに收容

207

班	材	器	線	無	線	有	部	本	別 隊	隊長名	團入 戦員	駐屯地 平時 戦時	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	隊別計	入「ソ」人員 滿洲殘留	收
										隊長 中尉 三池田治男 ? 運輸 隆雄		東 綏 大 威 威						

部隊名 獨立混成第一三三旅團通信隊

通稱號 奮戰三七五三一

郵便所名

人員編成						
隊長名 (内は先代を示す) 隊長 三池田治男 中尉 蓮輸 隆雄	本部	有線	無線	線	器	材
隊員	東 松					
駐屯地 戦時	大城					
戦闘中の状況及損耗						
終戦後の人員變動						
作業大隊より入「ソ」迄の變動						
入「ソ」人員	隊別					
満洲残留	計					
收容所	收容所名					
所入	死亡					
満洲より領	計					
者数	状況不明					

明治三十四年八月

八、九、一

八、一四

八、二二

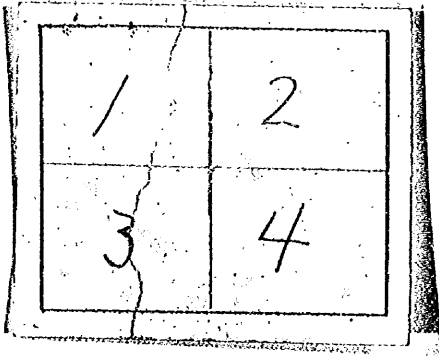
八、二六
東京城にて降参戦を二週間
後故河津由にて入

九、一二
ハクローツの参謀頭
て二分一分は開地
ルカースムカヤの收容

本 部	有 線	無 線	器 材 班	電 報 班
陸 軍 部				
海 軍 部				
空 軍 部				
内 務 省				
外 務 省				
文 部 省				
法 務 省				

班 報 電	班 材 器	線 無	線 有	部 本
				三 三 三 三 三 三

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0030
0031
0032
0033

所 属
第三軍獨立混成第一三二旅團
部隊名 獨立混成第一三二旅團挺進大隊
通稱 奮戰三三五二八
郵便所名

全般概要
轉入
轉出
員人編
隊長名
戰鬥間の状況及損耗
終戦後の人員變動
作業大隊より入「」返の變動
入「」人員
滿洲残留

全般概要		轉入	轉出	員人編	隊長名	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入「」返の變動	入「」人員	
<p>八、九 三、角山旅團司令部へ前進し、更に大隊前線は命令により会場に出向く。引続き大隊の前線となり大城麻に前進途中飛行機襲撃等の攻撃を受け各中隊毎に分進す。</p> <p>八、一五 大城麻にて陣地を築き三中隊は東等一砲隊地の守備隊に参加</p> <p>八、一八 停戦命令</p> <p>八、二二 大城麻を攻撃して武蔵、三、中隊のみ、二八停戦、出陣地にて大城、三、中隊の二小隊</p> <p>八、一一 砲隊砲口山二中隊の五小隊</p> <p>八、一〇 三、角山に於て夫々全滅す。主力は東京城にて作業大隊編成後入「」</p> <p>三、中隊は金谷收容所より現存を認て入「」</p>		<p>二〇、七、二八 第一四四守備隊 第一地隊 第四地隊 第五〇名 下士官候補者 約一、二二八名</p>		37	<p>大隊長 齋藤健太郎 副官 齋藤貞二郎 少尉 齋藤貞二郎</p>	<p>八、九、一〇〇〇旅團司令部より三、角山旅團司令部へ前進し、更に大隊前線は命令により会場に出向く。引続き大隊の前線となり大城麻に前進途中飛行機襲撃等の攻撃を受け各中隊毎に分進す。</p> <p>八、一五 大城麻にて陣地を築き三中隊は東等一砲隊地の守備隊に参加</p> <p>八、一八 停戦命令</p> <p>八、二二 大城麻を攻撃して武蔵、三、中隊のみ、二八停戦、出陣地にて大城、三、中隊の二小隊</p> <p>八、一一 砲隊砲口山二中隊の五小隊</p> <p>八、一〇 三、角山に於て夫々全滅す。主力は東京城にて作業大隊編成後入「」</p> <p>三、中隊は金谷收容所より現存を認て入「」</p>	<p>八、九、一〇〇〇旅團司令部より三、角山旅團司令部へ前進し、更に大隊前線は命令により会場に出向く。引続き大隊の前線となり大城麻に前進途中飛行機襲撃等の攻撃を受け各中隊毎に分進す。</p> <p>八、一五 大城麻にて陣地を築き三中隊は東等一砲隊地の守備隊に参加</p> <p>八、一八 停戦命令</p> <p>八、二二 大城麻を攻撃して武蔵、三、中隊のみ、二八停戦、出陣地にて大城、三、中隊の二小隊</p> <p>八、一一 砲隊砲口山二中隊の五小隊</p> <p>八、一〇 三、角山に於て夫々全滅す。主力は東京城にて作業大隊編成後入「」</p> <p>三、中隊は金谷收容所より現存を認て入「」</p>	<p>八、九、一〇〇〇旅團司令部より三、角山旅團司令部へ前進し、更に大隊前線は命令により会場に出向く。引続き大隊の前線となり大城麻に前進途中飛行機襲撃等の攻撃を受け各中隊毎に分進す。</p> <p>八、一五 大城麻にて陣地を築き三中隊は東等一砲隊地の守備隊に参加</p> <p>八、一八 停戦命令</p> <p>八、二二 大城麻を攻撃して武蔵、三、中隊のみ、二八停戦、出陣地にて大城、三、中隊の二小隊</p> <p>八、一一 砲隊砲口山二中隊の五小隊</p> <p>八、一〇 三、角山に於て夫々全滅す。主力は東京城にて作業大隊編成後入「」</p> <p>三、中隊は金谷收容所より現存を認て入「」</p>	<p>約八〇名他隊へ 内隊員以下二五名大城麻 残留 (兵器運搬中送リ)</p>	<p>約260</p>
隊別	本	第一	第二	第三	中	隊	中	隊	中	
隊長名	齋藤健太郎	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	岩崎良三	
戰鬥間の状況及損耗	八、九、一〇〇〇旅團司令部より三、角山旅團司令部へ前進し、更に大隊前線は命令により会場に出向く。引続き大隊の前線となり大城麻に前進途中飛行機襲撃等の攻撃を受け各中隊毎に分進す。	八、一〇〇〇〇命令に依り大隊前線会場山(天明)同時に行進の統率	三、〇〇〇遊河橋の到着	八、一一一大隊前線となり大城麻	〇一三、〇〇〇敵戦車に遭遇各中隊毎に大城麻	八、一五 大城麻到着陣地砲撃	八、一八二四、〇〇停戦命令	八、二二、八、二二〇、大城麻を攻撃して武蔵	八、一〇 三、角山に於て夫々全滅す。主力は東京城にて作業大隊編成後入「」	
終戦後の人員變動	約八〇名他隊へ 内隊員以下二五名大城麻 残留 (兵器運搬中送リ)									
作業大隊より入「」返の變動	約八〇名他隊へ 内隊員以下二五名大城麻 残留 (兵器運搬中送リ)									
入「」人員	約八〇名他隊へ 内隊員以下二五名大城麻 残留 (兵器運搬中送リ)									
滿洲残留	約八〇名他隊へ 内隊員以下二五名大城麻 残留 (兵器運搬中送リ)									

隊名 獨立混成第一二三旅團挺進大隊 通稱號 奮戰 三三五二八

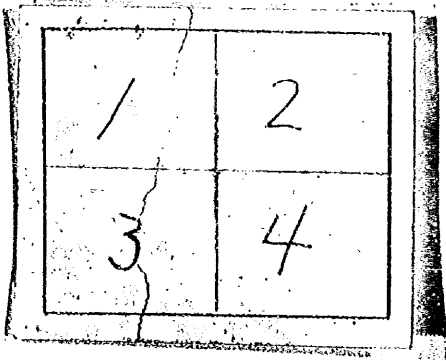
郵便所名

隊別	本隊	第一中隊	第二中隊	第三中隊
隊長名 (内は先代を示す) 大隊長 齋藤健太郎 副隊長 齋藤貞二郎 少隊長 齋藤貞二郎	中隊長 岩崎良三 少隊長 岩崎良三 1少隊長 岩崎良三 2少隊長 岩崎良三 3少隊長 岩崎良三 4少隊長 岩崎良三 5少隊長 岩崎良三	中隊長 親久 少隊長 親久 1少隊長 親久 2少隊長 親久 3少隊長 親久 4少隊長 親久 5少隊長 親久	中隊長 堤洋三 少隊長 堤洋三 1少隊長 堤洋三 2少隊長 堤洋三 3少隊長 堤洋三 4少隊長 堤洋三 5少隊長 堤洋三	中隊長 藤田親久 少隊長 藤田親久 1少隊長 藤田親久 2少隊長 藤田親久 3少隊長 藤田親久 4少隊長 藤田親久 5少隊長 藤田親久
強人 職員 時員	18(少1)	336 (少1)	337	337
駐屯地	東(子門石) 西(子門石)	右 同	右 同	右 同
戦闘間の状況及損耗	八、九、一〇、〇〇旅團命令により三角山 旅團司令部に前進 二二、〇〇旅團北滿洲河沿いに於て旅團命令 受領主方は金島山大破敵へ轉進次期作戦準備 中	一、三、四 小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先登となり三角山陣地へ 前進す 八、一〇 五小隊は三角山にて全滅 八、一一 二小隊は郭亮船口山にて全滅 生還約三名後不明	八、九 旅團一號陣地歩七八三大隊に配 属同地守備隊に參加 八、二〇 出光陣地守備三小隊(約六〇名) が陣地より脱出不能二宮少尉以下五、六名 のみ生還小野少尉陣地に夜襲失敗戦死 等約十二名 八、二八 旅團命令現地に於て武庫	九、一 金谷收容所へ
終戦後の人員變動	各部隊十名他隊へ	同 左	九、一〇 雑察へ行軍 クラスキーがセフト理由で ロビシヤンへ	
作業大隊より 入「ソ」迄の變動	東京城に於て市團少尉以下 約八〇名他隊へ 内海軍軍以下二五名大破敵 殺害 (兵器運搬中送り)	同 左		
入「ソ」迄の人員	約 18	約 334	約 203	約 260
滿洲残留			計 910	
收容所名	市團少尉以下八〇名 ホーランド地区四〇名 その他 二五名 約五五五名		ヒロビシヤン四五 收容所 第九分所約二〇名 第四分所約一五〇名 將校收容所約五名 計約二六〇名	
人員				
死亡	25 (行李班を含む)			3 病死
歸還人員				
状況不明者数				

<p>班 李 行 隊 大</p>	<p>隊 中 三 第</p>	<p>隊 中 二 第</p>	<p>隊 中 一 第</p>	<p>部 本</p>
<p>軍 班 長 小林 友吉</p>	<p>1 中隊長 堤 洋三 2 少尉 横山 洋三 3 同 二宮 4 同 小野 5 同 萩原</p>	<p>1 中隊長 鎌田 親久 2 少尉 萩田 十三 3 同 村澤 好郎 4 同 花元 重徳 5 同 仁田 一求</p>	<p>1 中隊長 岩崎 良三 2 少尉 岩崎 良三 3 同 木曾 重雄 4 同 市園 一雄 5 同 中井 芳男</p>	<p>少 隊 官 齊藤 二郎</p>
<p>100</p>	<p>337</p>	<p>337</p>	<p>336 (ケ1)</p>	<p>18(ケ1)</p>
<p>右 同</p>	<p>右 同</p>	<p>右 同</p>	<p>右 同</p>	<p>東 (子隊右)</p>
<p>八、九 石門子 八、一五 大城廠</p>	<p>八、九 石門子 東、一 一號陣地</p>	<p>一、三四 右に同じ 二、五小 八、九、 山門子、 八、一五、 山郭、 八、一五、 山郭、 八、一五、 山郭、 八、一五、 山郭、</p>	<p>右 同</p>	<p>八、九、 山郭、 八、一五、 山郭、 八、一五、 山郭、</p>
<p>大隊主力と同じ 飛行機銃隊により損害受死五名</p>	<p>八、九、東第一號陣地歩七八三大隊に肥後同地守備隊参加 八、二〇、出丸陣地守備三小隊(約六〇名) 左陣地より脱出不能二宮少尉以下五、六名のみ生存小野少尉陣地夜襲失敗受死五、六名等による損害約十二名 八、二八、停戦命令現地にて武断</p>	<p>一、三、四 小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先登となり三角山陣地へ 八、一〇 五小隊に三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口山にて全滅 生存約三名後不明</p>	<p>八、一〇〇〇、〇〇命令に依り大隊前進命令 山、天所と同時に飛行機銃隊の攻撃 三、〇〇 遊河隊の到着 八、一一 大隊前進となり大城廠へ 〇、一五、〇〇敵砲撃に遭逢各中隊毎に大城廠へ 八、一五、大城廠到着陣地既備 八、一八、二四、〇〇停戦命令 二、一八、二〇、大城廠老又家にて武断</p>	<p>大隊主力と同じ 飛行機銃隊により損害受死五名</p>
<p>約95</p>	<p>約260</p>	<p>約203</p>	<p>約334</p>	<p>18</p>
<p>計910</p>				

班 季 行 隊 大	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部	本
軍 班 長 曹 小 林 友 吉	5 同 萩 原 4 同 小 野 3 同 二 宮 2 同 角 田 1 同 横 山 中 隊 長 堤 温 少 尉 洋 三	5 同 仁 田 4 同 花 元 3 同 村 澤 2 同 濱 田 1 同 森 夫 大 尉 鎌 田 少 尉 親 久 中 隊 長	5 同 北 川 4 同 中 井 3 同 市 園 2 同 木 曾 1 同 岩 崎 少 尉 岩 崎 中 隊 長 良 三	少 尉 岩 崎 中 隊 長 良 三	少 尉 岩 崎 中 隊 長 良 三
100	337	337	336 (ケ1)	18(ケ1)	
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	東 (子 石)
八、九、石門子 大賊廠	八、九、石門子 東寧一號陣地	八、九、石門子 山郭亮船口	八、九、石門子 山郭亮船口	八、九、石門子 山郭亮船口	八、九、石門子 山郭亮船口
大隊主力と同じ 飛行機銃により損害受死五名	八、九、東寧一號陣地歩七八三大隊に配 同陣地守備隊参加 八、二〇、田文陣地守備三小隊(約六〇名) 京陽により配出不能二宮少尉以下五、六名 の歩兵連小野少尉同陣地に夜襲失敗受死五 名等による損害約十二名 八、二八、停戦命令現地に於て武解	一、三、四、小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先鋒となり三角山陣地へ 進出 八、一〇、五小隊は三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口にて全滅 全隊約三名不明	八、一〇〇〇、〇〇命令に依り大隊副官金 島山へ天明と同時に飛行機の銃撃 三、〇〇、遼河橋の到着 八、一一、大隊前衛となり大賊廠へ 〇一五、〇〇敵軍に近進各中隊毎に大賊 廠へ 八、一五、大賊廠到着陣地配備 八、一八、二四、〇〇停戦命令 二、二八、二〇、大賊廠老夏家にて武解	八、一〇〇〇、〇〇命令に依り大隊副官金 島山へ天明と同時に飛行機の銃撃 三、〇〇、遼河橋の到着 八、一一、大隊前衛となり大賊廠へ 〇一五、〇〇敵軍に近進各中隊毎に大賊 廠へ 八、一五、大賊廠到着陣地配備 八、一八、二四、〇〇停戦命令 二、二八、二〇、大賊廠老夏家にて武解	八、九、石門子 山郭亮船口
	九、一、金着收容所へ	一、三、四、小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先鋒となり三角山陣地へ 進出 八、一〇、五小隊は三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口にて全滅 全隊約三名不明	一、三、四、小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先鋒となり三角山陣地へ 進出 八、一〇、五小隊は三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口にて全滅 全隊約三名不明	一、三、四、小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先鋒となり三角山陣地へ 進出 八、一〇、五小隊は三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口にて全滅 全隊約三名不明	一、三、四、小隊は右に同じ 二、五小隊八、五先鋒となり三角山陣地へ 進出 八、一〇、五小隊は三角にて全滅 八、一一、二小隊は郭亮船口にて全滅 全隊約三名不明
約95	約260	約203	約334	18	
		計910			
ハバロフスク第四 收容所約九五名	ピロビジャン四五 收容所 第九分所約一三〇名 第四分所約一五〇名 將校收容所約五名 計約二六〇名	約二〇名は他隊へ	東京城に於て市園少尉以下 約八〇名他隊へ 内海軍以下二五名大賊廠 殘留 (兵器彈薬申送)	ハバロフスク第三 分所(三〇三名) (行方不明を含む) テオブロー、モ、モ、モ 市園少尉以下八〇 名	ハバロフスク第三 分所(三〇三名) (行方不明を含む) テオブロー、モ、モ、モ 市園少尉以下八〇 名
	3 病死			25 (行李班を含む)	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0034
0035
0036
0037

第三軍獨立混成第一三二旅團 部隊名獨立混成第一三二旅團砲兵隊

通稱號 奮戰 二七五二九

郵便所名

全設概要		八、八 大城子落着にて閉塞ソウの 盛攻により牙隊一隊三分止 降地	八、九 一高の郭を奪取降地へ現 在せしめ主力は大城廠へ轉 送要攻に在りし一團小隊 玉碎す	八、一四 大城廠落着同時部隊兵 器武器	八、二八 東京城にて武解入ソ一 一部は八、二八老屋敷にて 武解	八、三〇 東京城より入ソ一		
轉入	轉出	十九年以降	十九年以降	員人制編	132	132	577	
隊別	隊長名	隊員	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	隊別計	滿洲殘留
本隊	少佐 河野 浩一	()内は先代を不示す	大城廠	戰死一〇負傷五、行方不明五〇	九、一五、ハバロフスクにて作六二六七大隊編成 差大松本勇一	入ソ人員	75	75
指揮班	少尉 宮崎 定清	70	關 勝	八、二三 東京城にて武解		隊員	75	75
第一隊	中隊長 中尉 立野	168	大城廠	八、二〇大城廠にて武解		隊員	75	75
第二隊	少尉 中澤	140	大城廠	一部郭突出に阻害(七〇)		隊員	75	75
第三隊	少尉 永田	100	大城廠			隊員	75	75

隊名 獨立混成第一三三旅團砲兵隊

通稱號 奮戰 二七五二九

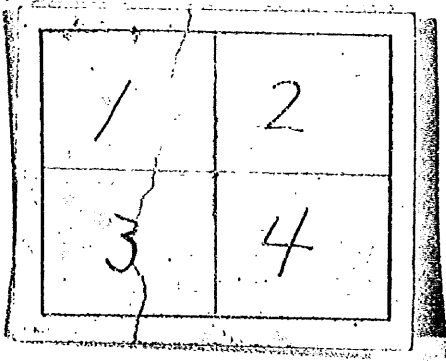
郵便所名

三第	隊中二第	隊中一第	班揮指	部	本	別	隊
少尉 永田	少尉 中澤	中隊長 中尉 立野	少尉 宮崎 定海	少佐 河野 浩一	(内は先代を示す)	隊長名	
100	140	168	70		(全員65)30	人員	
						駐屯地	
	廠城大	興勝			廠城大	戰鬥間の状況及損耗	
一部郭登山に配置(七〇)	八、二〇大城廠にて武庫	戦死一〇負傷五、行方不明一〇 八、二三 東京城にて武庫				終戦後の人員變動	
	九、一五、ハバロフスクにて作大二六七大隊編成 長大岡松本男一					作業大隊より 入ソ返の變動	
75	75	下士官ノミ 9	70	30		入ソ人員	
						滿洲殘留	
ハバロフスク第三	ハバロフスク第三	コムソモリスク	ハバロフスク			收容所名	
						所人	
						死亡	
						滿洲より領	
						計	
						者數	狀況不明

<p>八、二九 一隊の隊員が陣中にて一隊の隊員を殺害し、三方に大破散れ、遂に荒山にたどり、一隊の隊員を捕す。</p> <p>八、一四 大破散れ、陣中にて隊員を殺害し、三方に大破散れ、遂に荒山にたどり、一隊の隊員を捕す。</p> <p>八、二八 東京城にて武將入「ソ」一部は八、二八老及家にて武將</p> <p>八、三〇 東京城より入「ソ」</p>						
72	132	132	132	577		
列	段	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	班 揮 指	部 本
		少尉 永田	少尉 中澤	中隊長 中尉 立野	少尉 官崎 定藤	少尉 官崎 定藤
		100	140	168	70	(全員65)80
			廠 城 大	関 勝		
		一部荒山に配属(70)	八、二〇大破散れ、武將	(八、一五)八、一九大破散れ、陣中にて陣中捕獲	戦死一〇員、行方不明一〇	
				八、二三 東京城にて武將		
				九、一五 大破散れ、武將にて作大二六七大破散れ、長大尉松本勇一		
25	75	75	75	下士官ノミ 9	70	80

列	段	隊中三第	隊中二第	隊中一第	班揮指	部	本
		少尉 永田	少尉 中澤	中隊長 中野 立野	少尉 宮崎 定滿		
		100	140	168	70		(全頁85)80
			廠城大	関 勝			
		一部郭売出し配属(七〇)	八、二〇大城廠にて武解	八、二三 東京城にて武解 恐死一〇負傷五、行方不明五〇			
			九、一五ハバロフスクにて作大ニ六七六發編成 長大尉松本勇一				
		25	75	75	下任管ノミ 9	70	80
		ハバロフスク第三	ハバロフスク第三	コムソモリスク	ハバロフスク		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0038
0039
0040
0041

所 第三軍獨立混成
第一三二旅團
部隊名 獨立混成第一三二旅團工兵隊
通稱號 滿洲 三五七三
郵便所名

全般概要		轉入	轉出	編制人員	隊別	隊長名	開人時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	入ソ人員	滿洲殘留	收
<p>八、九 羅子潭軍地配備</p> <p>八、一〇 大坂城へ轉進同地附近陣地を確保し、隨處の攻撃に依り戦死二、戰車攻撃に參加す。損害なし。</p> <p>八、一五 停戦</p> <p>八、三〇 東京城に突圍攻撃せる途中、浪家子にて其解さる。(約二〇行方不明)</p> <p>九、三 作大二六五は牡丹江披河經由入ソ」</p> <p>ハスロフスク」</p> <p>狀況經過者羅子潭新生三一、目四一〇(五)高橋辰雄</p>		十九年以降	十九年以降	288	本 部	隊長 中尉 長渡 具視	160	東 統 浪家子		九、二三 東京城に於て一ヶ大隊編成行軍にて牡丹江に向	九、二五 牡丹江にて河野大隊編成長大尉河野浩一(萩原六〇〇河野發五〇)	隊別計		
隊 小 二 第	隊 小 一 第													

隊名 獨立混成第一三三旅團工兵隊

通稱號 滿洲 三三五七三〇

郵便所名

隊別	本部	第一小隊	第二小隊
隊長 (内は先代を示す) 中尉 長瀬 具親			
戦時人員	160		
駐屯地	東 紘		
戦時	浪家子		
戦闘間の状況及損耗			
終戦後の人員變動		九、二三 東京城に於て一ヶ大隊編成行軍にて牡丹江に向ふ	
作業大隊より入ソノ迄の變動		九、二五 牡丹江にて西野大隊編成長大尉河野浩一(波原隊六〇〇河野隊四〇〇)	
入ソノ人員	隊別計		
滿洲残留			
收容所	收容所名		
所入	所入		
死亡	死亡		
歸還人員	滿洲より領		
計	計		
狀況不明者數	者數		

八、一〇 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

八、一五

八、三〇 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

九、三 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

月四一〇(在) 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

本 部	第 一 小 隊	第 二 小 隊	第 三 小 隊
書 長 長 長			
-160-			
接			
子 接			

九、二三 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

九、二五 大坂城の陥落
大坂城の陥落は、徳川家康の死後、豊臣氏の子孫が、大坂城を以て、徳川氏と争つた結果、大坂城が陥落した事である。

隊 小 三 第

隊 小 二 第

隊 小 一 第

部 本

正
副
目録

160

終

子家

九、二三 東宮城に於て一ヶ大隊編成を畢ん
て牡丹江に向ふ。

九、二五 牡丹江にて河野
大隊編成長大尉河野治一
（萩原隊六〇〇河野隊四〇
〇）